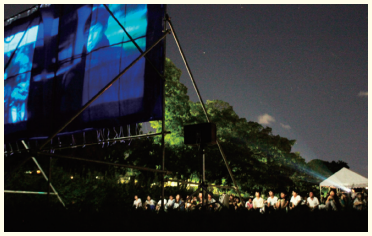
大学・学生と地域がコラボして京都のまちを活性化！！

学まちコラボ

平成27年度活動報告



公益財団法人 大学コンソーシアム京都 The Consortium of Universities in Kyoto

京都市 CITY OF KYOTO

学まちコラボって？？

大学・学生と京都市で暮らす人々との連携は、大学内だけでは得難い貴重な学びを創出します。

京都市と大学コンソーシアム京都では、魅力溢れる京都のまちづくりに貢献しながら得られる大学・学生の学びを充実させるため、大学・学生と地域が目的を共有し一体となって実施する、京都のまちづくりや地域活性化に資する企画・事業を広く募集し、認定した事業に支援金（最大 30 万円）を交付して取組を応援する学まちコラボ事業を実施しています。

大学・学生 × 地域
＝地域活性化 !!

４月～５月	募集
６月	審査（書類・プレゼンテーション）
７月	認定式
	事業実施
３月	事業報告会

応募も学び !!

公開プレゼンテーション審査

応募団体の中から書類審査を通過した団体が、選考委員や一般来場者の前でそれぞれの取組をプレゼンテーションします。平成２７年度は１８件の応募のうち、書類審査を通過した１７件がプレゼンテーション審査に臨みました。

各団体、工夫を凝らしたプレゼンテーションで取組をアピール。選考委員から厳しい質問が飛ぶこともありますが、どの団体もしっかりと準備を重ねてきた成果を存分に発揮します。また、連携する地域の皆さんも応援にかけつけていただきました！

さあいよいよスタートだ !!

認定式・講評

採択された事業について、門川大作京都市長や選考委員同席のもと、認定式を開催。市長から認定証を交付し、各団体が取組に向けた決意を表明。地域活性化に向け、力強くスタートを切ります。

認定式終了後には、選考委員から、採択団体それぞれに対して講評とアドバイスが行われ，各団体真摯に聞いていました。

事業実施

学びの本番 !!

採択された１４団体が地域のみなさんとともに活動開始 !!　詳細は各事業のページを御覧ください !!

	No.	事業名	団体名	ページ
認定事業	1	音もだち大作戦！ ～０歳からの音楽会～	京都市立芸大生有志による ニコニコファミリーコンサート実行委員会	3
	2	京北宇津ふれあい学びあい	京都精華大学京北宇津宝さがし会	4
	3	ふしみ・ふかくさコミュニティアーカイブ	ふしみ・ふかくさコミュニティアーカイブ プロジェクトチーム	5
	4	伏見深草・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクト	龍谷大学・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクト	6
	5	自転車タクシーロポリ	御園橋 801 商店街振興組合	7
	6	地域と大学の共生プロジェクト	京都経済短期大学・地域と大学の共生プロジェクト	8
	7	粟田口茶の湯のまちづくり	白川を創る会	9
	8	京都三条会商店街寺子屋事業	京都光華女子大学　光華三条ガールズ	10
	9	嵐山アートプロジェクト	京都嵯峨芸術大学　芸術学部 デザイン学科　観光デザイン系	11
	10	豊園　～時間と距離を越えて繋がる縁側プロジェクト～	豊園　～人をつなげる縁側プロジェクト～ 実行委員会	12
	11	都ライド’15	都ライト実行委員会	13
	12	カモシネマ 11	立命館大学　カモシネマ実行委員会	14
	13	記録と記憶のことおこし 2 ～仕事を創る～	京都造形芸術大学 近代産業遺産アート再生プロジェクト「まか通K」	15
	14	稲荷学～部発 おこしやす、トラベルマナー	みらいの環境を支える龍谷プロジェクト	16

事業報告会・意見交換会

学びを総括 !!

報告会終了後には、一般来場者も交えた意見交換会を行いました。取組に対する質問から、アイデア提案など活発な意見交換となりました。

学生が、地域の方と共に取り組んだ成果を選考委員や一般来場者の前で発表します。平成 25 年度からは、最も優れている取組を行った団体を 1 団体選び表彰しています。
様々な課題に直面しつつ取り組んだ成果は、学生にとっても地域にとっても大きな財産となり、今後の活動にいきることでしょう。

1 音もだち大作戦！ ～０歳からの音楽会～ （京都市立芸術大学） 下京区 右京区

実施団体の紹介

京都市立芸大生有志による ニコニコファミリー コンサート実行委員会

京都市立芸術大学在校生・卒業生有志らにより立ち上げられた音楽グループ。「大人も子供も楽しめる音楽会」をテーマに、観客参加型のファミリーコンサートや音楽ワークショップを企画・運営している。

ほっこりスペース、フレンドリーハウス西八条

ほっこりスペース（右京区）、フレンドリーハウス西八条（下京区）はともに京都市の「つどいの広場」事業の一環として開設された施設であり、小さな子どもを持つ親子が気軽に集い、交流できる場所を目指している。

事業について

目的

私たちは昨年度の京都市における活動の中で、子どもを持つ多くの保護者から「子どもを連れていけるクラシック音楽のコンサートがほとんどなく、残念だ」という声を聞いた。そこで本年は、そういった特に小さな子どもを持つ親子に向けて本格的なクラシック音楽を届ける事を目標とし、活動を行なった。

活動内容

ほっこりスペースにおける月に１度の訪問演奏、フレンドリーハウス西八条・八条幼稚園における２度の訪問演奏の他、地域の児童館や、ショッピングセンター、嵯峨野福祉協議会主催のイベントにおける訪問演奏・ワークショップを実施している。その他、上記以外にも幼稚園を中心に京都市内の７箇所の児童施設にも訪問演奏を実施している。３月13日（日）にはファミリーコンサート「0歳からのオペラ『子どもと魔法』」を実施予定。

成果

〈学生にとって〉

地域に出て、その関わりの中から音楽活動を行っていくことにより、普段大学で勉強しているだけでは考えなかったような、社会と音楽の関わり方や、地域のニーズに答えていく音楽のあり方を実地で学ぶことが出来た。

〈地域にとって〉

今年度の活動を続ける中で、私たちの演奏会やワークショップを目当てに施設を訪れる親子も見られるようになり、地域の中で身近にクラシック音楽に触れられる空間を提供することができているのではないかと考えられる。

学生・地域の声

子どもを連れて音楽を聴ける機会がなかなか無いので、普段通っている、身近な場所で聴けたことが嬉しかった。

子どもがヴァイオリンの音に釘付けになっていて、小さな子供でもちゃんと音楽を聴いているのだなと感じた。

2 京北宇津ふれあい学びあい （京都精華大学） 右京区

実施団体の紹介

京都精華大学 京北宇津宝さがし会

京都市右京区京北宇津地域の宝（自然、人、技術、伝統、歴史など）さがしや問題点の整理、地域と大学の交流イベントなどを通じた地域の活性化をめざす活動を行う大学サークルである。

宇津自治会

京都市右京区京北の宇津地域の自治会。宇津地域に関しての情報や施設の提供、共働作業への参画、イベント広報や告知支援、また、地域住民への情報提供などの協力を行っている。

事業について

目的

宇津地域は豊かな自然と歴史に恵まれながら過疎化が進んでいる状態にある。地域住民からは居住者では気付かない新たな発見や価値を発掘し、発信することやイベント開催の要望も強くある。このことから、宇津地域の活性化と学生の豊かな学びの育成を目的としている。

活動内容

季節毎に地域の子ども達を対象に写真教室を開催し、大人の目では気付かない宇津の魅力を再発見した。夏祭りでは初めて宝さがし会として屋台を出店し、地域社会への参画を深めた。地域の方々からの要望を受け、パンフレット第２弾、案内板制作、HPの更新も行い、宇津の魅力を地域外へ発信する活動もより充実させた。更に、宇津のイメージキャラクターを考案し、地域の子ども達から名前を公募する事で、子ども達の宇津への愛着を育んだ。

成果

〈学生にとって〉

昨年度より唐突かつ大幅にメンバーの増えた今年度は、組織運営の難しさを痛感した年になった。団体の動きとして至らない点は多々あったが、宇津地域の方々はいつも暖かく迎えてくださり、地域へ足を運ぶ度に私達も成長する事が出来た。

〈地域にとって〉

「活気ある田舎」を目指す自治会活動に 大学生の斬新な目で提案・参画してもらうことで、新たな繋がりが生まれ、思いがけない方向へと展開をみせている。その流れに押されて最初の一歩が踏み出せたように思う。

学生・地域の声

昨年度以上の地域コミュニティの活性化を実感している。宇津を拠点に、今後さらに地域の和を広げていきたい。（学生）

高齢化に伴い恒例行事を継続していくことが大変なところを助けていただき感謝しています。（地域）

※各事業の記載内容は１月末現在

3 ふしみ・ふかくさコミュニティアーカイブ （龍谷大学） 伏見区

実施団体の紹介

ふしみ・ふかくさ コミュニティアーカイブ プロジェクト

龍谷大学コミュニティメディアゼミ（政策学部松浦ゼミ）の学生（現在 11 人）を中心に、8 ミリフィルムの収集、公開、アーカイブ活動を通じ、地域の活性化に取り組んでいる。

深草商店街

伏見区深草に位置する商店街。
フィルム発掘のため、広報活動、情報提供のご協力いただいた。

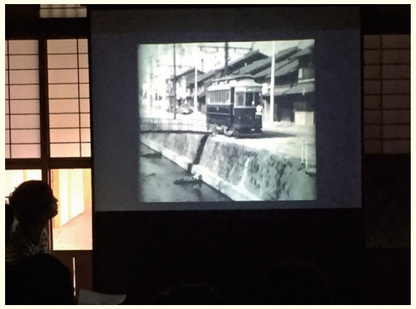
NPO 法人 remo

映像を中心に様々な表現活動に取り組む非営利組織。技術、ノウハウを提供していただいている。

事業について

目的 地域の記録を知的財産として収集・活用する「コミュニティアーカイブ」が全国各地で活発化している。
大学生が主体となり、昭和の町並みや暮らしぶりを市井の視点から記録した「8 ミリフィルム（現在劣化が進行している）」を地域資源として保存、それを公開活用することで学生、地域住民の交流を生む。

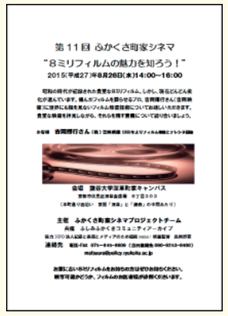
活動内容
・フィルム収集を進めるため、深草地域のイベント（藤森神社手作り市等）に参加した。地域住民の方に直接お話をし、フィルム収集にご協力いただいた。
・龍谷大学深草町家キャンパスにて8ミリフィルム映像を公開し地域住民と学生との交流の場を設けた。
・映像にさらなる情報を付加するため、フィルム提供者にフィルム映像について記憶の聞き取りを行った。



成果

〈学生にとって〉
自分たちの通う伏見区について、住民の方から多くのお話を聞くことができ、伏見区についてより知ることができた。また本来の目的のアーカイブ活動とともに、地域住民との交流の機会がたくさんもてた。

〈地域にとって〉
地域の方々が撮影された懐かしい昭和時代の映像記録が復活し、地域としての資源ができたこと。
また映像公開の場で、地域住民どうしの交流やさらには学生との新たな交流が生まれたこと。



学生・地域の声

大学がある地域としての深草だったが、活動を通じて直接住民の方からお話をきき、深草地域の昔のことなどを知れておもしろい。（学生）

懐かしい映像が見れて本当にうれしい。息子に見せたい。（地域）

興味深い活動です。
ぜひ続けてください。（地域）

4 伏見深草・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクト （龍谷大学） 伏見区

実施団体の紹介

龍谷大学・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクトチーム

社会福祉を学ぶ短期大学生が構成メンバー。私たちの活動が大学周辺の地域の活性化につながり、私たちも地域の方々から学ぶことを通じて大学生として成長したいと願っている。

深草川久保町自治会
砂川学区自治連合会
砂川学区東高瀬川を美しくする会
京都市立伏見工業高等学校 システム工学科都市情報システムコース
京都市立砂川小学校 4 年生児童

※「平成 27 年度きょうと地域力アップ貢献事業者等」として京都市長から表彰を受けた。

事業について

目的 地域の自治会・町内会が主催する伝統行事は、役員の高齢化と少子化により停滞気味であった。そこで、私たちが地域行事に参画することで、高齢者と児童を繋ぐ橋渡し役の世代になると考えた。
単にイベント当日に参加するだけでなく、行事の会場となる東高瀬川の清掃活動にも参加して地域活動の活性化をめざした。

活動内容
自治会役員と地蔵盆プログラムの企画･準備を話し合った（7/16）。
地蔵盆行事の借景となる東高瀬川の清掃活動を実施した（8/11）。
地蔵盆両日には、私たちの企画したプログラムを実施して、夜には河川流域と河岸に竹灯籠を灯して会場を盛り上げた（8/22 ～ 23）。従来から東高瀬川周辺のまちづくりを検討していた伏見工業高等学校教諭から、高校生の活動と成果の講義を受けた（10/14）。伏高生徒が主体で地元恒例の東高瀬川清掃活動に私たちも全員参加した（11/11）。

成果

〈学生にとって〉
学内の講義中心の学生生活だったが、地域の伝統行事に参画し、多世代とのコミュニケーション能力が身についた。他府県からの下宿生にとって京都の地蔵盆を知る機会となり視野を拡げることができた。

〈地域にとって〉
学生が大人と子どもの橋渡し役となり、子どもにとって気軽に声を掛けて共に遊んでくれる存在となり、とても親しみを持たれた。地域活動に学生が関わることで学生と地域社会双方の相乗効果により活性化を図ることができた。

学生・地域の声

知らない人や多世代の人とコミュニケーションを図ることができ、多くのことを学べた。（学生）

学生が来てくれて子どもたちがとても喜んだ。河川清掃、草刈りや地蔵盆の準備等学生の人数に助けられた。退屈そうな子どもに声かけをするなど機転を利かせてくれて助かった。次年度も是非継続して欲しい。（地域）

地域活動の達成感を味わった。（学生）

ひろげよう がっくのわ しようよ たのしく かわの せいそう！

※各事業の記載内容は 1 月末現在

5 自転車タクシーロポリ （京都産業大学） 北区

実施団体の紹介

自転車タクシーロポリ

京都産業大学のサークル有志と御薗橋801商店街振興組合の連携

御薗橋801商店街振興組合

大学近隣に位置しており学生自身も下宿や買い物でお世話になっておりイベントなどで以前より協力関係があった地元商店街。

包括センター・社会福祉法人都会

ロポリによる高齢者の買い物送迎・病院の送迎等社会福祉活動の連携

事業について

目的 高齢者や、身体に障がいが出るなどして「外出に疎遠になったり、行き来の手段に制約のある人たち」の手足として、自転車型タクシーを運営。利用料を抑え、ドアツードアの送迎を行い、まちづくりの担い手として地域コミュニティの構築・強化と商店街の活性化を図った。

活動内容 高齢者の足となり、自転車タクシー送迎を行うほか、地域の医療法人が主催するイベント時や「観光スポット」をめぐる「秋の散策」運行、イベントの告知走行、商店街の最大イベント（みそのばしフェスティバル）でのデモンストレーション走行など、様々な場面で自転車タクシーを運行した。
また夏季休暇を利用し、共有スペースで子供たちの学習のお手伝いをするなどの活動も行った。

成果

〈学生にとって〉

・普段は接点のない、年配の方に接することで「相手を気遣う」精神を意識することができた。
・地域の方々と共に、様々なイベントに参加ができ、又協力ができて社会に出ても役に立つ経験をさせてもらった。
・歩道の段差や交通マナーに重要な意味があることを発見でき自分たちにも役立った。

〈地域にとって〉

・事業に前向きに取り組む多くの学生と接して、新鮮な気持ちになった。
・普段忘れかけていた地元スポットを見なおすことができた。
・学生が地域にとって活性化の起爆剤になっていた。

学生・地域の声

福祉や歴史に対する関心が深まった。地元への興味が強くなり好きになった。（学生）

一日他人と話さない日があったが、話相手になってもらい刺激になった。（地域）

夏休みに宿題を見てもらい親子ともども大いに感謝された。

御薗橋801商店街
マスコットキャラクター
801（やおい）ちゃん

6 地域と大学の共生プロジェクト （京都経済短期大学） 西京区

実施団体の紹介

京都経済短期大学 ・地域と大学の共生プロジェクト

京都経済短期大学のソーシャルビジネスコースである高橋ゼミと三宅ゼミの両学生が、急速な少子高齢化に直面する洛西ニュータウンにおける社会的課題の解決を目指す取り組み。

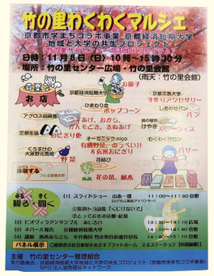
NPO法人洛西福祉ネットワーク

主に洛西ニュータウン居住の高齢者に対する助け合い活動、さらに活動拠点である「わくわくサロン」での住民の居場所づくりなどを行っている。

事業について

目的 洛西ニュータウンはいろいろな意味においての社会問題を先取りしている。たとえば高齢化に伴う「老老介護」「昼間独居」の高齢者も多く、最近では一人暮らしのお年寄りも増えていている。
そこで、若者世代の学生とのコラボによって、人と人とのつながりを少しでも豊かにすることを目指した。

活動内容 一つ目の事業は毎週金曜日の「昼食を楽しむ会」で、学生が「わくわくサロン」に弁当を配達し、地域住民と食事をしながら社会的課題の聞き取りを行った。
二つ目は「わくわくマルシェ」や「わくわくセミナー」と称する取り組みで、地域住民の交流の場づくりにＮＰＯスタッフとともに学生も参加参画した。
三つ目は「買い物弱者アンケート」で、高齢者の不安は日常的な食料問題であることが判明したので、ニュータウン住民を対象にしたアンケート調査を実施した。



成果

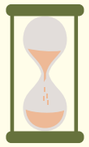
〈学生にとって〉

このような社会的課題はニュータウンにだけに生じる独特なことではなく、今後はどこの地域でも生じる可能性がある問題であることに気づいた。またそれを今は大丈夫だと見て見ぬふりをするのではなく、問題意識とすることの重要性も知った。

〈地域にとって〉

若者世代がニュータウンを敬遠する理由が、「まち」としての魅力に欠けている旨にあると気づいた。また若者と「融合できるまちづくり」と高齢者にとって「やさしいまちづくり」は矛盾しないことを認識できた

学生・地域の声



普通のおじいさんやおばあさんが意外と物知りで、それは知識というよりも人生経験での知恵であると思えた。（学生）

若い学生と話ながら食べる食事はおいしい。暗い過去や病気の話よりも明るい未来の話は何よりのおかずであった。（地域）

※各事業の記載内容は１月末現在

7 粟田口茶の湯のまちづくり （花園大学・立命館大学 華頂大学・京都橘大学） 東山区

実施団体の紹介

白川を創る会

白川の魅力の継承・発信を行うネットワーク組織として、河川清掃、自治連合会と合同の子供祭り、交通量調査、散策マップ作り、勉強会など、地域住民の意識の向上や、地域の魅力の発信につながる活動を実施している。

花園大学茶道部有志
立命館大学茶道部有志
華頂大学茶道部有志
京都橘大学 裏千家茶道部有志学生

茶の湯を活用した地域づくりの可能性を考えるグループ「おちゃのこ会」として活動している。

事業について

目的

平成26年の事業で発見・発掘した茶の湯の目から見た地域の魅力的な場所（東山からの眺望スポット、地蔵盆の場、東山山麓の広場）を、今年度は地域の方を中心に広く知ってもらい、地域の魅力向上につながるような新たな使い方を、地域の方と一緒に考えていくことを目的として実施した。

活動内容

尊勝院境内からの眺望、開いた地蔵盆、あおくすの庭の散策（3月実施予定）の３つのテーマの茶会を行った。茶会の前には、例えば粟田学区で開かれている各所の地蔵盆の様子を取材して冊子にまとめるなど、それぞれのテーマについて事前調査を行い、調査結果を茶会への来訪者との共通の話題としながら、それぞれの地域の場所の魅力と活用の可能性についてインタビューを行った。

成果

〈学生にとって〉

前半の茶会では、地域住民と社会人の茶人がアドバイスをする中で、学生が地域との連携や調整を学び、3月の茶会は学生が企画の主体となって段取りを進めている。

〈地域にとって〉

茶会を開いた場所において、近隣住民の記憶や思い出を聞き取りながら対話を行うことで、将来の使い方や可能性について新しい意見が出てきた。

学生・地域の声

子供の頃よく遊んだ場所に数十年ぶりに訪れてとても懐かしかった。きっかけになるのでまたやってほしい。

自分の住んでいる町ではもう地蔵盆をやっていないが、子供に雰囲気を体験させることができてよかった。

8 京都三条会商店街寺子屋事業 （京都光華女子大学） 中京区

実施団体の紹介

京都光華女子大学 光華三条ガールズ

三条会商店街が好きで、子供たちが好きで、子供にとっては遊び場や学び場として、そして地域の方々にとってはコミュニティの場の一つとなる「交流の場」をもつために、寺子屋で活動している団体である。

京都三条会商店街振興組合

三条会商店街や周辺地域でのイベントの企画、実施など、さまざまな活動を行っている。
イベントや商店街のお店の情報を載せたチラシを毎月発行しており、寺子屋事業の活動告知も載せていただいている。

事業について

目的

商店街のイベントや季節に合わせたイベントを企画・実施し、子供たちや地域の方々にとってコミュニティの場の一つとなるような活動を行い、三条会商店街の更なる活性化を目指す事業である。

活動内容

８月にわかさ生活さまから連絡をいただき、ブルーベリー祭に参加。スライムづくり体験ブースを開き、多くの方々に参加していただき、寺子屋活動の周知に努めた。
その後季節に合わせたイベントを開催。10月にハロウィン仮装、11月、12月にクリスマスリースづくりを行い、多くの親子の方々に楽しんでもらうことができた。他にも立体ビッグアートづくりや、寺子屋事業で初めて高齢者の方を対象とした活動であるロコモ体操教室も開催した。

成果

〈学生にとって〉

講義では経験できない、地域の方や企業の方との交流、連携の方法などを学ぶことができるとても良い機会となっている。また、活動を進めていくにつれて、何度も寺子屋に足を運んでくださる方が増えていることに活動を続けていて良かったという思いが生まれている。

〈地域にとって〉

寺子屋で遊んでいる間に知らない子と友達になったり、親同士でコミュニケーションが生まれていることがあった。そこからさらに新たなコミュニティコミュニティができるよう商店街側と連携を深め、活動を続けていくが今後の方針になると考えている。

学生・地域の声

子どもがとてもたのしそうで、お姉さんたちも優しくサポートしてくれ、ゆっくりたのしい時間をすごせました！

自分たちではなかなか手作りで物を作ることがないので素敵な機会を作って頂いて感謝しています。

※各事業の記載内容は１月末現在

9 嵐山アートプロジェクト （京都嵯峨芸術大学） 右京区

実施団体の紹介

京都嵯峨芸術大学
芸術学部デザイン学科
観光デザイン系

観光デザイン系２回生が、嵯峨嵐山を舞台に、観光とデザインという２つの視点から、よりよい地域社会に繋がる、様々なイベントなどの活動を提案している

嵐山おもてなしビジョン
推進協議会
（嵯峨嵐山の５商業団体の統合体）

京福電気鉄道株式会社

京都市（中之島公園管理）

昇竜苑

事業について

目的

京都の中でも豊かな自然や歴史文化に恵まれている嵐山に芸術を重ね合わせることによって、京都が歴史文化だけではなく、絶えず芸術を育んでいる土地であることを再認識してもらうことを目的とする。

活動内容

初夏の季節性、地域や施設の物語をテーマに学生ならではのアート作品を展示し、豊かな芸術活動が観光客はもちろん地域の事業者や住民にそれとなく感じられる活動を行った。

嵯峨嵐山地域に京福電鉄と協力し嵐電嵐山駅構内天井に染色作品、嵐電の電車内で地域をテーマとしたコミックアート作品、駅舎のトイレに嵐山を想起する動物をテーマにしたトイレアート作品を展示した。トイレアート作品は、中之島公園の公共トイレにも設置した。昇竜苑では芸大生を生かした参加体験型のクロッキーイベントをはじめとした、ライブアートや箏曲による演奏を開催し、好評を得た。

成果

〈学生にとって〉

嵐山一体をアートに包んだ今回のイベントは嵐山に新しい魅力を創出した。また地域社会における観光資源のあり方、考え方など、訪れる人々に対するおもてなしの精神を培うことができた。
また、事業運営においてはスケジュール管理の重要性、グループワークにおけるあり方など再認識させる良いきっかけとなり、大きく成長できた。

〈地域にとって〉

日常空間の嵐山に非日常のアートの要素加えることにより、地域の人々や訪れる観光客に楽しみや発見を与えることができた。今後の嵐山観光の将来方向に芸術というテーマがあることに気づくことができた。

学生・地域の声

利用者からは、トイレが装飾されていて綺麗に使おうと思った。
（トイレアート）

琴の演奏が嵯峨嵐山の雰囲気と合っていた。
（箏曲の会による演奏）

観光に来てクロッキーを、しかも芸大生に描いてもらえるなんて思ってもいなかったしよい旅の思い出になった。
（クロッキーイベント）

10 豊園 ～時間と距離を越えて繋がる縁側プロジェクト～ （龍谷大学） 下京区

実施団体の紹介

豊園
～人をつなげる
縁側プロジェクト～
実行委員会

京都市下京の豊園学区を中心に、まちの縁側つくり、地域の活性化に取り組んでいる。今年度は地域の若者を積極的にイベントに参加してもらうために体験型の事業を実施した。

豊園自治連合会

豊園学区でのイベント活動や祇園祭の参加を行っている連合会。
イベントのお手伝い、広報活動、場所の提供などにご協力いただいた。

事業について

目的

私たちが2013年度に行ったアンケート調査から世代間交流の希薄化、住民の高齢化が問題視され、今年度はこれらの問題に視点を置いた活動行った。そして昨年の１月に実施した「ワークショップ」で挙げられた案をもとに、地域のニーズに沿った活動を実施した。

活動内容

世代間交流の希薄化の解消、若年層の積極的なイベントの参加を図るために、3つの事業を実施した。親子で楽しくカレーを作る野菜博、地域の伝統技術取り入れてミサンガを作る手作り広場、豊園学区の過去と現在を比較して放映する上映会の3つである。
野菜博は、地域の誰もが親しみを持てる「仏光寺」で開催し、手作り広場と上映会は、今後まちの縁側に発展していくと考えられる「豊園自治連合会館」で開催し、多くの住民が足を運んだ。

成果

〈学生にとって〉

様々な事業に企画・運営することにより、地域の方々とのコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができた。約8か月という短い期間内で、4つの事業を実施したことで、自身の経験値を向上することができた。

〈地域にとって〉

事業を実施することにより、普段は参加しない住民の方が参加し、豊園学区に興味を持ってもらうことができた。また若年層をターゲットにしているため、新たな地域の担い手の発掘の前進となった。

学生・地域の声

地域で継続的に活動しているため、深い関係性を持つことができ、信頼関係を築けた。また、事業に参加、企画・運営することで助かった。（地域）

自分自身で一から、企画するといった経験したことがないことを経験できた。また地域との連携で、コミュニケーション力が向上した。（学生）

※各事業の記載内容は１月末現在

11 都ライト’１５ （同志社大学・京都府立大学・立命館大学 京都産業大学・龍谷大学） 上京区

実施団体の紹介

都ライト実行委員会

都ライト実行委員会は、京都市内の大学に通う学生を中心に、社会人スタッフと共に運営している。ANEWAL Gallery という町家を改修したギャラリーを拠点に、毎年代替わりしながら活動を続け、本開催で11回目となる。

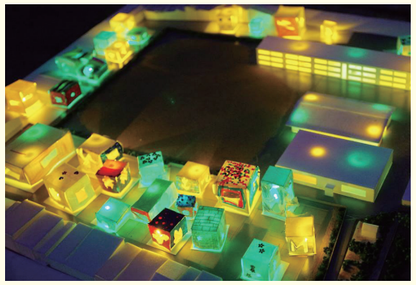
京都市立翔鸞小学校

地域の魅力を発掘し情報発信するという三年生の総合的学習の授業にアドバイザーとして参加させてもらった。その成果として地域のミニチュア模型を児童と制作し、イベントで展示した。

事業について

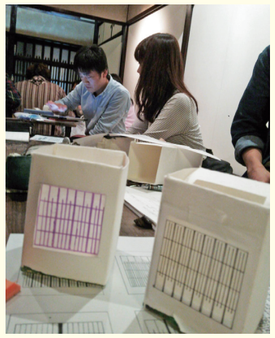
目的

町家のライトアップを通じて、町家の保全や地域に興味を持ってもらうことを目的としている。年々減少している日本独自の建造物である町家を見て、街並みを歩くことによって、地域の人々や来場者に町家の魅力や暮らし、古くからの京都の伝統、地域の繋がりについて考えてもらうきっかけづくりを目指す。



活動内容

本団体がより地域に根ざした組織となるため、地域の方と定期的に交流すること、地域の新たな交流の場をつくることを目指して、地域の町家施設をお借りしてワークショップを開催した。また「都ライト’１５」のイベントでは、町家の中で行う企画や、町家や地域に詳しい方から実際に話を聞ける企画などを用意し、来場者に町家や地域を感じてもらえる機会を充実させた。



成果

〈学生にとって〉

京都や町家に関する知識を学んだことで、地域に対するイメージが変わり親近感が増した。また、地域の方と関わる機会が増え、普段から挨拶を交わすような関係になった。

〈地域にとって〉

地域の大人が気づいていなかった町家や地域の魅力を地域に伝えるアプローチの一助となり、また地域の方と意見交換することで、イベントが地域に根ざしたものになりつつあると伺える。

学生・地域の声

町家の魅力や京都の文化に触れられるだけでなく、地域の方と交流でき、新たなつながりができた。

学生が抱いている町家や地域の魅力について知る機会にもなり、地域に長年住む住民として興味深い。

12 カモシネマ 11 （立命館大学） 上京区

実施団体の紹介

カモシネマ実行委員会

野外上映会や清掃活動を行うことで映画だけではなく、鴨川しいては自分の周りの環境について考え、行動できるきっかけをつくる。

鴨川を美しくする会

鴨川清掃ボランティア団体。鴨川茶店、鴨川納涼などで清掃にて運営協力。

ミスキャンパス立命館

上映前イベントへの出演、また当日の清掃活動への参加で協力

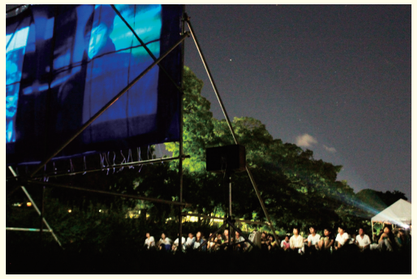
立命館大学アカペラサークル Clef

上映前イベントへの出演

事業について

目的

この活動の目的は、鴨川や自分の周りの環境について考え行動する「輪」を広げていくことである。鴨川は遠目には綺麗な川だが、近くで見てみると結構なごみがある。しかしその事実はあまり知られておらず、美化運動に繋がっていない。そうした現状を地域の方々や来場者に知ってもらうことで、鴨川や身の回りの環境について考え、行動できるよう清掃活動や野外上映会を企画している。



活動内容

4月には鴨川茶店、8月には鴨川納涼でごみ分別ボランティアを実施。また 8月22日には団体の中心事業であるカモシネマを開催。鴨川の清掃を行い、映画「桐島、部活やめるってよ」の上映を行った。約300人の来場者には、映画上映前にごみ分別の啓発動画を流し、環境に対する意識を高めるよう促した。

成果

〈学生にとって〉

カモシネマの活動や運営に携わり、清掃活動に参加することで、すこしでも鴨川の環境保全に役立ったという達成感が得られた。また、一連のイベント活動を通して地域に対する愛着が湧いたように感じる。

〈地域にとって〉

野外映画上映というイベントや鴨川の清掃活動を通して鴨川という地域の魅力を見つめ直すことができた。さらに、人と人とのつながり、人と鴨川とのつながりの輪を広める機会にもなった。

学生・地域の声

外、鴨川で映画を見るというのが新鮮でとても楽しかった。鴨川をもっと好きになった。

ごみ分別の啓発動画が可愛かった。機会があったら、清掃活動に参加したいと思った。

13 記録と記憶のことおこし２ ～仕事を創る～ （京都造形芸術大学） 東山区

実施団体の紹介

近代産業遺産 アート再生プロジェクト「まか通区」

東山区の魅力を見つけ、芸大生ならではのアートの視点から新たな価値を創造。今年で11年目となる本プロジェクトは新たに「しごとを創る」というテーマを定め、東山の魅力から地域に還元される利益を生み出すしくみを考え、試行。

五条坂陶器祭運営協議会

五条坂に店を構える陶器屋を中心とし、毎年多くの観光客で賑わう京の代表的な夏の風物詩、「京都・五条坂陶器まつり」を運営している。

事業について

目的

東山区の文化や歴史的な魅力をもっと地域の方に知っていただき、自分のまちをより好きになってもらうきっかけづくりを目的としている。今年度はより具体的にしごとを創ることによって地域のひとにそれらの魅力ある資源を必要とし、大切にしてほしいと考え活動。東山区の魅力を更に全国へ発信していきたい。

活動内容

今年2年目となる陶器人形では、ワークショップを行い地域のこどもたちと一緒に陶器人形を制作し、作り方を指導。また、陶器の破片でアクセサリーを作り、販売。アクセサリー作りのワークショップも盛況のうちに終えることが出来た。また鍾馗祭ではまか通オリジナルの鍾馗ご利益品を制作、販売。おみくじ、お守り、手ぬぐいなどのご利益品を通じて鍾馗をもっと身近に感じてもらえるように展開した。その他毎年恒例の地獄絵イベントや落語のイベントなども実施。

成果

〈学生にとって〉

地域創世について改めて考え直し、芸術というアプローチから地域にどう価値創造できるのかを試行し、理解する1年となった。また、地域の方々と協力してイベントを運営することで大学だけでなく、広いコミュニティーに出て地域の方と関わることで自分の力をより実践的に試し、深い学びとすることができた。

〈地域にとって〉

2年目となる陶器人形では6000人を越える方に来場いただき陶器人形という文化をより多くの方に知っていただくことができた。また、鍾馗祭の際に制作したオリジナルの鍾馗おみくじとお守りは、祭り以降も若宮八幡宮さんにおいていただき鍾馗を地域の方に身近に感じていただいている。

学生・地域の声

陶器人形や鍾馗祭は回を重ねるごとに更にいいものにしたいと考えている。地域の方が去年よりもいいね、と直接言ってくださったことが何よりも嬉しかった。

毎年グレードアップしている。陶器まつりに来る楽しみが増えた。

14 稲荷学～部発 おこしやす、トラベルマナー （龍谷大学） 伏見区

実施団体の紹介

みらいの環境を支える 龍谷プロジェクト （略称・みらプロ）

龍谷大学、同大学院の法学部生15名を中心とした景観とまちづくりに関する学生有志団体。21世紀のまちづくりにおいて「景観」をキーワードに、今後の日本社会のまちづくりの在り方等を日々、調査、研究を行っている。

深草稲荷保勝会

京都市内の観光景勝地の美化の維持、観光地としての魅力向上のために、地域住民の方々によって自主的に組織され、地域の個性を活かしたイベントや清掃活動などを行なっている団体。

事業について

目的

伏見稲荷商店街は日々数多くの外国人観光客が訪れているため、安全面や衛生面において多くの問題が生じている。そこでマナー問題に対して学生目線から解決していき、外国人のマナーアップだけでなく、ホストとゲストの相互理解を促すコミュニケーションのための活動を行うことを目的とする。

活動内容

伏見稲荷商店街や伏見稲荷大社で外国人観光客へアンケート調査を3度行い、伏見稲荷商店街の方とアンケート調査を通して交流し意見を伺った。また観光政策の研究、行政が行った外国人観光客に対するアンケート・外国人観光客に関する書籍で情報の分析、京都市役所観光産業局MICE推進室、嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会にヒアリングなど、様々な取組を行い、地域の方と外国人観光客のコミュニケーションのツールとして「コミュニケーションカード」を作成した。

成果

〈学生にとって〉

本事業を通して地域の方々だけでなく外国人観光客、留学生、協議会の方、行政の方など様々な関係性が生まれ、外部とのつながりが増えたことでより多角的な意見に触れることが出来た。

〈地域にとって〉

「コミュニケーションカード」を作ることで、学生が地域の方々と外国人観光客のパイプとなる新たな関係が生まれた。また外国人観光客のマナー問題についての認識が変化した。

学生・地域の声

コミュニケーションを通して外国人観光客と地域住民とを学生が結ぶことは良いことだと思う。

学生が京都の観光に関心を持つことは、地域活性にも観光の発展にもつながると思う。

※各事業の記載内容は１月末現在

学まちコラボ事業

学まちコラボ事業は平成16年度から実施しており、今年度で12年目を迎えました。
振り返ればこれまでに100を超える事業を採択し、その活動を応援してきました。中には継続した取組も増え、その取組内容は回を重なるごとに充実し、地域に根付いた活動となっています。
本事業への申請がきかっけとなって、ますます地域が活性化し、魅力あふれる京都のまちになることを願い、事業を実施していきます。

平成26年度

最優秀事業団体　都ライト実行委員会

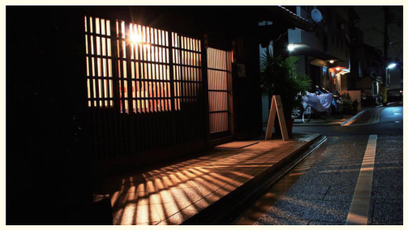
学まちコラボ事業では、平成25年度より、報告会において最も優秀な事業団体を表彰し、トロフィー、賞状、活動奨励金（10万円）の授与を行っています。
都ライト実行委員会は様々な大学に所属するメンバーが、それぞれの技をうまく活用し、工夫を凝らした事業内容で平成26年度もバージョンアップを図りながら、継続した活動が行われたことが評価され、受賞となりました。

団体からのメッセージ

～町家のライトアップを通じて、町家の保全と町や地域に興味を持ってもらうために～

平成26年度は、「京まちや七彩コミュニティ」と連携し、龍谷大学深草町家キャンパスにて「まちやライトみゅ～じあむ」を開催。この企画は、平成25年度の学まちコラボ事業報告会がきっかけで実現したものです。都ライトの開催地域を飛び出した「出張都ライト」ができました。

平成27年度は、メインイベント前後のつながりを強化することを目的として「都ライトワークショップ」を企画し、年間を通して活動を行いました。都ライトの会場地域内で行うことや、ワークショップの参加者に町家に入ってもらい、直接町家に触れることを重要な要素としました。いつもお世話になっている地域の方々や子供たち、留学生など多くの人たちに都ライトと町家についてより知っていただく機会ができました。また、8月には「京の七夕」の会場の一部を担当し、これまで行ってきたライトアップのノウハウを活かして、堀川会場の一条戻橋以北を照らしました。こうして都ライトのフィールドが広がってきているということは、それだけ関わってくださっている方々が増えているということです。
自分たちだけでは成り立っていないということを忘れずに、これからも活動を続けていきます。



「連携・協働の中で学ぶ」って??

学まちコラボ事業が考える「連携・協働」とは、市民の皆様や事業者などの**京都市で暮らす地域の方々と大学・学生が**、「地域のために」という**目的・目標を共有し、共に手を取り合って活動**されることです。

もちろん、最初から完璧な連携を求めているわけではありません。連携にはより深い連携に向けて相手に働きかけていく段階もあります。異なる組織同士が目的・目標を共有することは簡単なことではありませんし、互いに温度差があったり、トラブルや失敗が起こるなど、うまくいかないこともあります。しかし、**手をつなぐ相手がいて、応答しながら活動を進めていく関係性の中からこそ生まれる学びがあります。**

学まちコラボ事業は、**連携するからこそ得られる学びを重視し**、大学・学生と地域の連携による取組を応援します。

ご存知ですか?

協働がおいしくなるKyoのレシピ帳

「協働がおいしくなるKyoのレシピ帳」は、「市民参加推進フォーラム」の委員が、立場の異なる人や団体との協働に取り組む方々に行ったインタビュー結果と、平成26年2月11日に開催した「市民参加円卓会議」で多くの市民の皆様との意見交換を踏まえて作成されたものです。既に、活動の発展や充実のために他の団体等との協働に既に取り組んでいる方や、これから取り組もうとする方に対して、協働を円滑に進めるためのヒント等をイラスト付きで解説されています。
相手探しや目標の共有など、連携のコツが知りたい方は
「協働がおいしくなるKyoのレシピ帳」をチェック！
http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000169167.html

乾選考委員長メッセージ

「学まちコラボ」は、大学生の学びを支援する京都市と大学コンソーシアム京都の事業ですから、支援の大きな目的は「学生さんの学び」「学生さんの成長」です。ここが、他の「まちづくりのため」の支援事業とはひと味違う、本事業の最大のウリです。

「学まちコラボ」事業は、学生さんが「地域の方と一緒に、地域のための活動に取り組む」なかでの学びと成長を重視しています。地域を知り、地域の方と連携し、地域の方と気持ちを通い合わせるなかで、大学で身に付けた知恵や技が現場で活かされる…そんな「実感を伴う学び」の場に赴くことを求めています。これが本事業の第2のウリです。

「上手くいくかなぁ」と不安な人も居るかもしれませんが、安心してください。こんな（先の見えない…笑）学びの冒険をサポートするため、選考委員会と事務局は、支援団体決定の後も、アドバイスや他団体との交流の場を用意しています。これが第3のウリです。

じつはこんな体験は、地域活動が盛んな、そして学生さんを大切にする気風に満ちた京都でなければできない、とても贅沢な学びなのです。仲間と語らって、ぜひエントリーしてください。迷っている人は、まずは事務局に相談してみてください。待っています。

（公財）大学コンソーシアム京都　学まちコラボ事業担当
TEL：075-353-9130 / FAX：075-353-9101
（※日・月を除く 9:00~17:00）
Mail：gakumachi-admin-ml@consortium.or.jp
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

京都市総合企画局総合政策室（大学政策担当）
TEL：075-222-3103 / FAX：075-212-2902

検索
学まち

発行：京都市総合企画局総合政策室
京都市印刷物　第273259号　平成 28 年 3 月

この印刷物が不要になれば
「**雑がみ**」として古紙回収等へ！